

五、保育学の立場から

立教大学

森 脇 要

幼稚園、保育所の問題は新しい問題ではなく、両園の一元化の叫びは早くから行われているが、幼稚園、保育所はお互に違った歩み方をしている。最近では幼稚園の集りと保育所の集りと分れているようである。

今迄の先生方は幼稚園と保育所の相違点を挙げられたので私は類似点を述べて見たいと思う。幼稚園は幼児教育で保育所は保育に欠けた者の保育である。保育という言葉の意味は歴史的に考える

と幼児教育を表す言葉である。保育が教育というものと違っているならば、保育とは如何なることか具体的に証明されねばこの問題は明らかにならない。教育の面より、幼稚園、保育所の本質的な大きな相違は認められない。

たゞ保育所は長い保育時間のため保健的面が多くなる。その点保育の方法は変わってくる。幼稚園、保育所とも子供を円満に育てるに於て何ら変わりなく、保母のとるべき態度に相異はあるべきでない。

保母養成の問題が分れて来た、め益々対立しているが幼稚園保育所の保母をそれ／＼に養成せねばならぬ原因を摺むのに悩む。

又幼児のため、保育者のために、両施設の無駄な費用をはぶいて一つにしたらどうであろうか。もう少し謙虚な気持で現実のあり方を冷静に見る必要がある。免許状の一体が叫ばれているが、幼稚園と保育所の職員はそれ／＼にプラスされねばならぬことは当然である。現在の傾向は両者の差異をますます助長させるようであり非常に遺憾である。二施設のあり方、使命は充分あるが、両者の在り方を再検討し今のような分離の方向をやめて、一致の方向に向けるのが日本の現状からいつて幼児教育のプラスになると考える。

記 録

日本保育學會記事

日本保育学会は昭和二十三年発足し、ここに第五年を迎えたのであるが、本年は名古屋に大会を開き、各方面からの多彩な研究発表があつて、保育の研究と実践に貢献するところが次第に顕著になりつつある。

一、第五回大会

第五回大会は、昭和二十七年五月二十五日(日曜)午前九時から午後五時まで、名古屋市立保育専門学園(名古屋市中区和区白金町三ノ一一)を会場として開催され、次のプログラムで進められた。

開会の辞 会長 倉橋惣三
(代理) 山下俊郎

第一部 研究発表

午前九時—午後三時

- 一、幼児の性格観察 愛育研究所 竹田俊雄
- 二、音符遊びについて 大阪キリスト教短大 聖愛幼稚園 小木會光子
- 三、保育に於ける童話の使命 泉大津市日本乳幼児教育研究所 砥上種樹
- 四、幼児の音楽経験に於ける環境より受ける機制について 愛知学芸大学 水野久一郎
- 五、幼児の神経症について 愛育研究所 平井信義
- 六、名古屋市の於ける幼児(三才—五才)の身体充実度及び栄養状態の調査 名古屋市立保育専門学園 鈴木善子
愛知学芸大学 鈴木信政

七、幼稚園に於ける「社会」について

八、手先の訓練について

九、北陸の一地区で幼児教育はどのように理解されているか

一〇、今後の幼稚園、保育所の歯科衛生はどうあるべきか

一一、問題児事例研究

一二、特殊幼児の観察記録

一三、幼児の言語教育について

一四、歯列の不正をおこす種々なる不良習癖について

一五、保育者の精神衛生(一)(保育者の悩みについての調査)

第二部 総会 午後一時半—二時

第三部 シンポジウム 午後三時—五時

「幼稚園と保育所をどう考えるか」

司会

一、教育行政の立場から

- | | |
|-----------|------|
| 千葉大学 | 宮内孝 |
| 名古屋市 | 峯親吉 |
| 高田幼年教育研究会 | 根岸草笛 |
| 愛育医学会 | 深田英朗 |
| 京都市児童院 | 坂本幸子 |
| 神戸市立神戸幼稚園 | 中谷久子 |
| 東京高等保育学校 | 内山憲尙 |
| 保育医学会 | 深田文子 |
| 頤栄短期大学 | 西本脩 |
| 東京都立大学 | 山下俊郎 |
| 文部省初等教育課長 | 大島文義 |

二、教育者の立場から

愛知県舉母市西小学校 筑紫孝一

三、厚生行政の立場から

厚生省 副島ハマ

四、厚生事業の立場から

日本社会事業短期大学 小宮山 主計

五、保育学の立場から

立教大学 森脇 要

閉会の辞

副会長 小川 正通

来会者は地元の名古屋はもとより、全国各地より参集、およそ四五〇名の多数に上り、会場の講堂もあふれるばかりで盛会であつた。

なおこの大会を開催するに当つては、昨年来、地元の鈴木信政委員を大会準備委員長として、浅野寿美子、珠川善子、堀要の三委員の外、臨時委員として大河内四郎、長谷川秀和山本喜三の諸氏が大いに尽力された。

二、総 会

昭和二十七年年度通常総会は、右の大会の第二部として、午後一時半から開催され、山下副会長を議長として議事が進められ、竹田委員より昭和二十六年度事業報告として、第四回（会場・お茶の水女子大学）月例研究会およびフレール百周年記念講演会開催の件、研究報告誌発行の件、現在会員数等について報告があつた後、村山委員より会計報告が別項のこと

く行われ、次いで竹田委員より昭和二十七年年度事業計画として第五回大会、研究会、会報、大会研究報告誌発行の件について説明があり、村山委員よりそれと関連して別項の予算説明が行われ、可決された。

昭和二十六年度決算報告

昭和二十七年年度予算

また次回は東京で大会を開催することが決定され、なお会員の獲得、会費の増額、名簿の作成、宿題研究、地方会、開催研究発表方法等について会員諸氏から活潑な意見の開陳があつた。

昭和廿六年度會計報告

収入

1.	前年度より繰越金	23101円46銭
2.	会費	17850円
3.	編集費	15000円
4.	幼児の教育売上金	330円
5.	利子	232円20銭

収入合計 56513円66銭

昭和廿七年度豫算

収入

1. 前年度より繰越金	24.822円96銭
2. 会費	15.000円
3. 編集費	15.000円

収入合計 54.822円96銭

支出

1. 人件費	2000円
2. 事業費	
大会事業費	30.000円
研究会費	10.000円
会報費	8000円
3. 事務費	
委員会費及常任委員会費	1500円
通信費その他	2500円
4. 雑費	822円96銭

支出合計 54.822円96銭

支出

1. 人件費	0
2. 事業費	
大会事業費第四回大会	15.566円
第五回大会準備費	10.000円
月例会費	3.476円70銭
委員会費(常任委員会を含む)	759円
通信費	1.629円
3. 雑費	260円

支出合計 31690円70銭

差引残高 24822円96銭

三、その他の事業

◎月例研究会この年度中次の二回開催された。

(1) 幼児期の生活経験

松村康平氏

昭和二十六年四月二十一日、愛育研究所において、来会者約五十名。

(2) 私の見て来たアメリカの幼児教育 児玉省氏

昭和二十七年二月二十三日、日本女子大学において、

来会者三十名。

◎フレイベル百年記念講演會

昭和二十六年六月二十三日、お茶の水女子大学で、日本

幼稚園協会、東京都保育会、東京都私立幼稚園協会と共催。

倉橋惣三氏の開会の挨拶について、海後宗臣氏の「新し

きフレイベルの発見」石山脩平氏の「フレイベルと現代教

育の理念」と題する講演が行われた。来会者約五〇〇名。

◎第四回大會研究發表報告誌

これは「幼児の教育」第五十巻第九号(昭和二十六年九月)特集として発行された。

日本保育学会事務局

東京都港区麻布盛岡町

愛育研究所内